

他方、その中国等新興国の発展の恩恵もあり、足下では国内企業の業績も回復基調にあるとのことで、明るい材料も見えてきております。運輸産業は、昨年、景気の低迷や、原油価格の上昇等でご苦労された訳ですが、今年は是非良い方向に向かって頂きたいと期待しております。

GDPの例だけでなく、日本は大きな転換期にさしかかっており、成熟国としての諸課題に立ち向かいながら、新たな成長の糧を生み出すことも求められています。

こうした状況の中で、微力ではありますが、地域の運輸行政としてできることに前向きに取り組んで参りたいと思います。このためにも、様々な機会に、皆さまからのお話をお伺いしたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

九州運輸局次長 安藤 昇



3 現場レポート

▼▼旅客船の乗船体験及び大型フェリーの船内見学会を実施しました▼▼

若松海事事務所では、若松～戸畑航路に就航したばかりの北九州市営新造船<第十八わかと丸>での洞海湾周遊乗船体験と、小倉～松山航路に就航している関西汽船㈱の<フェリーはやとも2>での船内見学会を、さる2月8日(火)に北九州市立藤木小学校5年生59名を招待して実施しました。

まず、<第十八わかと丸>に乗船した生徒たちには、とにかく「海」を楽しんでもらうことを目的に船内をフリーにしたことから、船内をのびのびと、あっちうらうら、こっちで「きゃーきゃー。」と声を発しながら色々な場所から洞海湾の風景を眺めていました。また、本船はこれまでの同航路船には無かった2階席の吹き抜け構造で、操舵室(船の操船を行うところ)での操船風景を見ることができることから、肌寒い気温の中で興味深げにのぞき込む生徒もいました。

船内では、当事務所職員が船内マイクを片手に船上ガイドを勤め、洞海湾に立地する工場と海運業の関わりや、停泊している船舶の船種等の説明を行いました。短い周遊が終わり下船する時には、少し物足りない顔の先生や生徒もいましたが、全般的に喜んでくれたことにこの乗船体験を企画した甲斐を感じた次第です。

また、この乗船体験には、テレビ4社、新聞1社の取材があり、生徒たちがインタビューに答える様子がニュースとして放映されるなど、海上交通のPR活動にも成果があった上だった取り組みとなりました。

